

報道関係者各位

<特別展のご案内>

# 御舟と一村、珠玉の日本画

—明治から現代までの巨匠とその名作—

会期 2024年12月15日(日)～2025年6月1日(日)



① 展覧会メインビジュアル

岡田美術館(館長・小林忠)では、2024年12月15日(日)～2025年6月1日(日)まで、特別展「御舟と一村、珠玉の日本画—明治から現代までの巨匠とその名作—」を開催いたします。

速水御舟は、明治末期から昭和初期まで東京で活躍し、近代日本画に大きな足跡を残しました。その優れた作品と清廉で求道的な制作態度に、当時の画家たちが尊崇の念を寄せ、14歳年下の田中一村もまた、御舟を尊敬した一人でした。

2025年、御舟の没後90年の節目を迎えることを記念し、当館に収蔵されるそれぞれの代表作、御舟「木蓮(春園麗華)」と一村「白花と赤翡翠」を中心に、御舟の作品4件と一村の作品7件を一堂に展示します(うち一村の2件は個人蔵、他は当館蔵)。

併せて、狩野芳崖・橋本雅邦・富岡鉄斎・大橋翠石・横山大観・下村観山・菱田春草・川合玉堂・上村松園・鏑木清方・林古径・前田青邨・奥村土牛・土田麦僊・村上華岳・東山魁夷・加山又造などの作品を展覧し、明治初期から大正を経て昭和後期に至る、計50件の珠玉の日本画をお楽しみいただけます。

見どころ1

名画の競演 —御舟「木蓮」と一村「白花と赤翡翠」—

見どころ2

素材に注目 —岩絵具・金・雲母・墨—

見どころ3

明治・大正・昭和の巨匠とその名作

【特集展示】 日本のやきもの色イロ

見どころ1

名画の競演 —御舟「木蓮」と一村「白花と赤翡翠」—

御舟の「木蓮(春園麗華)」と一村の「白花と赤翡翠」は、自然の姿が格調高く描き表され、それぞれの代表作に位置付けられます。制作の時代や環境、画壇の評価の有無、紙に水墨・絹に着色という素材や技法などの違いを超えて、ともに高い絵の境地を目指していたことを伝えています。

この2点を向かい合う形で展示し、「名画」のすばらしさを心ゆくまで味わっていただくコーナーです。



深遠な墨色の追究

墨一色で、紫の花と  
やわらかな緑の葉を表す。  
御舟32歳、初の個展の  
出品作品で、近代日本画  
の水墨画の傑作。

②速水御舟  
「木蓮(春園麗華)」  
大正15年(1926)



赤い鳥は自画像？

奄美の花と鳥が、高貴とも  
いえる姿に描かれる。  
一村59歳、制作に専念した  
幸福な3年間の初期の作。

③田中一村  
「白花と赤翡翠」  
昭和42年(1967)  
©2024 Hiroshi Niiyama

はやみぎよしゆう

速水御舟(1894~1935)

現在の東京都台東区に質屋を営む家の次男として生まれる。

14歳の年に松本楓湖の画塾に入門し、17歳から数年、若手の研究会である紅児会・赤曜会で研鑽を積む。

20歳の年に再興された日本美術院で第1回展より高く評価され、院展を中心にさまざまな展覧会に出品。

周囲に期待されながら40歳と8か月余りの若さで病没した。

たなか いっそん

田中一村(1908~1977)

現在の栃木市に彫刻師の長男として生まれ、5歳のとき東京に移る。

17歳で東京美術学校(現東京藝術大学)に現役合格するものの2か月余りで退学。

独学で制作を続け、30歳から千葉で暮らす。

画壇で認められないまま、50歳のとき奄美大島に単身で移住し、69歳で亡くなるまで亜熱帯の植物や鳥、魚など珍しい題材を描いた。



見どころ2

素材に注目 —岩絵具・金・雲母・墨—

御舟は、日本画家の中でもとりわけ絵具とその使用法に独自の研究を重ねたことが知られています。一方、一村は、奄美大島での極めて質素な生活の中で、上質な絵具を東京から取り寄せていました。千葉に住んだ頃の作品にも、絵具や素地を工夫して表現した様子が見え、2人の作品の素材に注目しながら、それぞれの「こだわり」の表現をお楽しみいただけます。

金 無数の葉を金色で表現

揺れる竹幹をカラフルに描き、白いもやを添えて夢幻的に表現。



④速水御舟「竹生」昭和3年(1928)



⑥速水御舟「紅葉」昭和9年(1934)

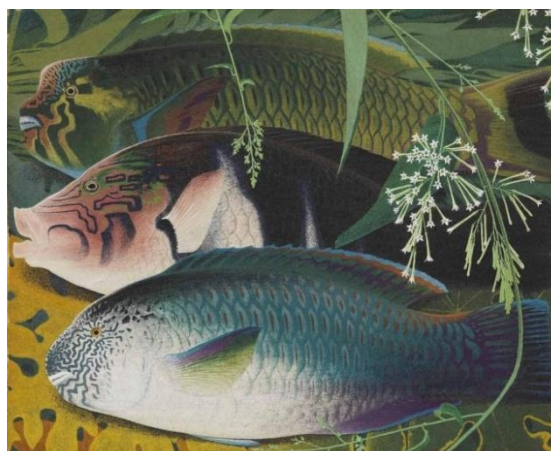
深紅 ひとさわ鮮やかな色調

赤色の明暗・濃淡を変化させつつ紅葉を描き、日本の秋の美を象徴的に表す。



岩絵具 色と光沢と質感を最大限に生かして

敷き詰めた葉の上に魚が並んでいるように描き、色彩で画面を満たす。「神へのささげもの」と見る説もある。



⑤田中一村「熱帯魚三種」昭和48年(1973)  
©2024 Hiroshi Niiyama



雲母 墨 岩絵具 逆光の景色を表現

白雲母が撒かれた絹地に、墨と黒い岩絵具、胡粉(滝の部分)で描く。濃いシルエットの向こうに光が感じられる。



⑦田中一村「瀑布」昭和30年(1955)頃 ©2024 Hiroshi Niiyama



見どころ3

明治・大正・昭和の巨匠とその名作

近現代の日本画は、岡田美術館のコレクションの主要な一群をなし、東京画壇、とりわけ日本美術院で活躍した画家たちの作品を中心に、京都画壇の作品や、画壇から距離を置いて制作した画家の貴重な作品を合わせて収蔵しています。約30人の画家による計50件の優品とともに、明治・大正・昭和という100年余りの時代を追いながら、豊かな日本画の世界を展覧します。

明治



⑧大橋翠石「虎図屏風」明治時代 19世紀末～20世紀初頭



虎の息づかいが聞こえる

「虎の翠石」の若年期の傑作。  
水墨を駆使して迫真的に描く。



⑨菱田春草「海月」  
明治時代後期 20世紀初頭

闇と光と音のドラマ

雲間から満月が現れ、海を照らし出す。「線を使わない」画法を追究した頃の絵。



⑩下村観山「秋韻図」  
明治時代後期 20世紀初頭

西洋画法を交えて表現

力強く生きる柏の老木をツタが彩る。留学して学んだ西洋画の立体表現が生かされている。



大正

麦の一粒まで精魂をこめて

豊かな実りの姿を、複雑な墨色と鋭い線で表現。古径に珍しい墨一色の絵で、御舟の「木蓮」と同年の作。



⑪小林古径「麦」大正15年(1926)

かわいらしい花と鳥

ヒナゲシの花びらに魅かれて遊ぶ2羽の雀。茎の曲線と蕾の玉がリズムを作る。



⑫土田麦僊「美人草」  
大正13年(1924)



昭和



⑬村上華岳「観世音座像」  
昭和12年(1937)

一切衆生を救う微笑

蓮華台に座る観音の姿に神秘的な威厳が感じられる。華岳が51歳で亡くなる2年前、祈りを込めて描いた1点。



⑭上村松園「汐くみ」  
昭和16年(1941)

珠玉のような麗人

去った恋人への想いを秘めて舞う、海女の松風。姿形や手の繊細な動きは、浮世絵に学んだもの。



⑮横山大観「雨後嵐峡」昭和時代  
20世紀前半



前田青邨「真鶴之浜」昭和44年(1969)  
©Y. MAEDA & JASPAR, Tokyo, 2024 E5670

明るい色調に感じられる希望

石橋山での大敗の後、箱根に隠れた源頼朝が、真鶴から主従7人で落ち延びていく。向かう先に広がる海は安房へと続く。

山桜の咲き残る嵐山に夏の声

左下の滝の前をホトギスがよぎり、夏の訪れを告げる。着色画を水墨画風に描いて、初夏の雨後を見事に表現。



加山又造「華と猫」  
昭和48年(1973)

闇に浮かび上がる牡丹の花

光り輝くように見える花を、シャム猫が瞳を細長くして見上げる。「牡丹に猫」という東洋の伝統的画題を新たな装いで再生。

【特集展示】

日本のやきもの色イロ

日本のやきものの色に注目し、弥生～江戸時代までの作品約25件を展示します。古代から好まれた「赤」、桃山時代まで作れなかった「白」、焼く温度で変化する「青」、豪華さを演出する「金」など、素材や釉薬、絵具、焼成方法によって様々に彩られたやきものを、陶磁器の基礎知識を学びながらお楽しみください。



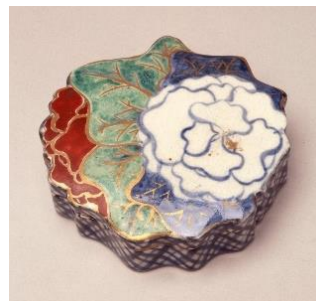
⑯「志野山水図鉢」美濃窯  
桃山時代 16世紀末～17世紀初頭

柔らかな白い地に伸びやかな筆致で水墨画を描く。日本初の本格的な白い器・志野の逸品。



⑰「色絵唐花文皿」鍋島藩窯  
江戸時代 17世紀後半～18世紀前半

中央を桜の形に白く残す凝ったデザイン。鮮やかな赤と透明感のある緑が白い磁胎に映える。



⑱尾形乾山「色絵立葵図香合」  
江戸時代 18世紀

立葵の花を象った小さな器。磁器のような白と鮮やかな濃彩を対比させ、金彩をアクセントに。

【開催要項】

展覧会名 御舟と一村、珠玉の日本画 —明治から現代までの巨匠とその名作—  
会期 2024年12月15日(日)～2025年6月1日(日)  
休館日 2024年12月31日(火)・2025年1月1日(水)  
主催 岡田美術館  
所在地 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1  
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)  
入館料 一般・大学生2,800円(2,550円) 小中高生1,800円(1,550円)  
※( )内は前売り料金。前売り券(JTBレジャーチケット、チケットぴあ)は主要コンビニエンスストア並びにチケットぴあにて販売。

【特別展 関連イベント】

参加費無料(要入館料)／定員あり

■ 講演会

『速水御舟の絵画世界』  
2025年3月22日(土)13:00～14:30 講師:小林 忠(岡田美術館 館長)★

『田中一村と奄美大島』  
2025年5月10日(土)13:00～14:30 講師:小林 忠(岡田美術館 館長)★

■ 関連講座

『御舟と一村 —理想の絵を求めて—』  
2025年2月22日(土)13:00～14:30 講師:小林 優子(岡田美術館 主任学芸員)

■ 特集展示スライドトーク

『やきもの鑑賞ガイド —日本陶磁の色—』  
2025年4月12日(土)13:00～14:00 講師:塩谷 尚子(岡田美術館 学芸員)

■ 館長によるスライドトーク

2024年12月26日、2025年2月13日、4月17日 いずれも木曜日13:30～

■ 学芸員によるギャラリートーク

2024年12月27日～2025年5月19日 毎週月・金曜日 11:00～  
月曜:常設展示、金曜:特別展「御舟と一村、珠玉の日本画」

★マークのついた【講演会】のみ事前申し込み(0460-87-3931)が必要です。

特別割引  
1

「速水御舟さん、田中一村さん」  
入館料特別割引キャンペーン

速水さん、田中さん ▶ 1,000円引！  
御舟さん、一村さん ▶ 半額！！  
速水御舟さん、田中一村さん ▶ 無料！！

＼本キャンペーン割引対象の方にさらに特典！／

現住所が速水御舟・田中一村の関係地の方は  
岡田美術館オリジナル絵はがきプレゼント  
対象地域:東京都台東区、栃木県栃木市、千葉県千葉市、鹿児島県奄美市

※本展覧会中のみの実施となります。  
※現在の本名の漢字が一致する方で、ご本人様に限らせていただきます。  
※受付にてご本人様の姓名のわかるもの(運転免許証・保険証等)をご提示ください。  
※他の割引との併用はできません。

特別割引  
2

大学生・短大生・専門学校生  
春休み旅行キャンペーン

2025年2月1日(土)～3月31日(月)の期間  
大学生・短大生・専門学校生の  
入館料1,000円引！

春休みは箱根へ！  
学生の皆さまを対象とした割引キャンペーンを  
期間限定で行います。

※受付にて学生証をご提示ください。運転免許証・保険証は不可。  
※他の割引との併用はできません。

国指定重要無形民俗文化財

## 「湯立獅子舞」演舞とワークショップ

11月2日(土)13:00～15:00(仮)に、文化振興プログラムとして国指定重要無形民俗文化財「湯立獅子舞」演舞とワークショップを行います。

申込受付中

- 小林忠館長のスライドトーク「江戸時代の街道と宿場」
  - 箱根宮城野 獅子舞保存会によるワークショップ
  - 湯立獅子舞(一本剣の舞)演舞
- ※参加費無料(要入館料)／定員あり／事前申し込み制  
(0460-87-3931)



⑱国指定重要無形民俗文化財「湯立獅子舞」

## SDGsな季節湯「湘南潮彩レモン」を開催！

足湯カフェでは11月23日(土)～12月8日(日)までの期間限定で、地元の特産品「湘南潮彩レモン」の足湯をお楽しみいただけます。SDGsの観点から食品ロスを少しでも減らすため、一般流通が難しいレモンを使用予定です。

【湘南潮彩レモンとは】2020年に、神奈川県西部で栽培されたレモンの総称として生まれた新ブランド。相模湾からの潮風を受け、爽やかな酸味と豊かな香りが特徴。

※美術館入館者は無料。足湯のみの利用は入湯料500円(税込)。



特別展「御舟と一村、珠玉の日本画」は、文化庁が統括する「日本博2.0」参画型プロジェクト認証を受けています。

【日本博2.0とは】2025年日本国際博覧会の機運醸成やインバウンド需要の回復、国内観光需要の一層の喚起を目指しつつ、日本の美と心を体現する我が国の文化芸術の振興及びその多様かつ普遍的な魅力を発信するプロジェクトです。

【次回展予告】愛と平和の江戸絵画

2025年6月8日(日)～12月7日(日) ※会期は変更になる場合があります。

### 【岡田美術館に関するお問い合わせ先】

岡田美術館 広報担当:高橋・山本・川村 TEL:0460-87-3931 FAX:0460-87-3934 E-mail:[pr@okada-museum.com](mailto:pr@okada-museum.com)

※年末年始および展示替えによる休館中(12月9日～14日、12月31日・1月1日)は留守番電話となります。メールアドレスにお問い合わせください。



## 【岡田美術館について】

岡田美術館は2013年10月、箱根・小涌谷に開館しました。全5階、展示面積約5,000㎡という屋内展示面積としては箱根随一を誇る広大な館内に、日本・東洋の陶磁器や絵画などの美術品を常時約450点展示しています。

日本で受け継がれてきた美術品を大切に守り、美と出会う楽しさを分かち合い、次代に伝え遺したい、との願いから、美術館が構想されました。美術館の正面を飾るのは、現代日本画家・福井江太郎氏によって描かれた縦12m、横30mに及ぶ風神・雷神の大壁画「風・刻(かぜ・とき)」(2013年)です。他にも深見陶冶氏、諸井謙司氏、樂雅臣氏など、現代作家の作品が屋内外に展示され、来館者をお迎えます。その他付帯施設もお楽しみください。



### 大壁画

琳派の祖ともいえる俵屋宗達の「風神雷神図屏風」をもとに、現代日本画家・福井江太郎氏が現代に甦らせました。構想も含め5年の歳月を掛けて制作した大壁画「風・刻」が、皆様をお迎えます。

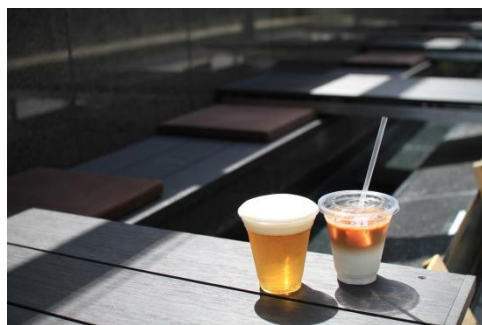
⑩美術館外観



### 開化亭

昭和初期の日本家屋を改装した風流な飲食施設「開化亭」は、明治半ば、この地にあった外国人向けホテルにちなんで名づけられました。趣ある古いガラス戸の向こうには、2か所に滝が流れ落ち鯉が回遊する池と、季節によって表情を変える庭園の木立が広がっています。「名物豆アジ天うどん」をはじめ、各種ドリンクなどをご用意しています。

⑪開化亭



### 足湯カフェ

風神・雷神の大壁画を前にした100%源泉かけ流しの足湯カフェでは、コーヒー、ビール、おしるこなどをお楽しみいただけます。なかでも、静岡県産の茶葉を使用した和紅茶は、「食のオスカー」とも呼ばれる『Great Taste Awards(英)』で金賞を受賞した逸品です。

⑫足湯カフェ



### ミュージアムショップ

昨年よりコラボレーションをスタートしたピエール・エルメ・パリとの限定チョコレートは、当館ミュージアムショップのみの販売です。美術館のシンボルマークをあしらったショコラなど、7種類の組み合わせをお楽しみいただけます。

⑬アソリュティマンド ショコラ ミュゼ オカダ 7個入 3,800円(税込)



**【注意事項】**

- \* 本特別展の紹介に限り使用し、二次使用や改変（部分使用含む）はご遠慮ください。
- \* 使用后2週間以内に、貸与したデータをすべて消去してください。
- \* 表記一覧に記載した掲載キャプション（作品名、作者名、制作年、岡田美術館蔵ほか）をすべてご記載ください。
- \* web掲載時は「画像写真の無断転載禁止」の旨をご記載ください。
- \* 校正原稿を広報担当者までお送りください。※校正期間は中3営業日

**【田中一村「白花と赤翡翠」「熱帯魚三種」「瀑布」を掲載の場合】**

- \* 「©2024 Hiroshi Niiyama」の記載と事前校正、データ消去証明書をご提出ください。
- \* 紙媒体は掲載誌3部を寄贈してください。
- \* web媒体は特別展終了後（2025年6月1日）に画像を取り下げてください。

			
① 展覧会メインビジュアル	② 木蓮(春園麗華)(部分)	③ 白花と赤翡翠	④ 竹生(部分)
			
⑤ 熱帯魚三種	⑥ 紅葉(部分)	⑦ 瀑布	⑧ 虎図屏風(部分)
			
⑨ 海月(部分)	⑩ 秋韻図(部分)	⑪ 麦(部分)	⑫ 美人草(部分)
			
⑬ 観世音座像(部分)	⑭ 夕くみ(部分)	⑮ 雨後嵐峡(部分)	⑯ 志野山水図鉢
			
⑰ 色絵唐花文皿	⑱ 色絵立葵図香合	⑲ 湯立獅子舞	

※⑳～㉓はプレスリリース内にて貸出画像をご確認ください。

FAX 0460-87-3934

E-mail [pr@okada-museum.com](mailto:pr@okada-museum.com) (岡田美術館 行)

プレスリリースをご参照の上、ご希望の写真No. に✓印を付けてください。

No.	掲載時のキャプション
1	展覧会メインビジュアル
2	速水御舟「木蓮（春園麗華）」（部分）大正15年（1926） 岡田美術館蔵
3	田中一村「白花と赤翡翠」昭和42年（1967）©2024 Hiroshi Niiyama 岡田美術館蔵
4	速水御舟「竹生」（部分）昭和3年（1928） 岡田美術館蔵
5	田中一村「熱帯魚三種」昭和48年（1973）©2024 Hiroshi Niiyama 岡田美術館蔵
6	速水御舟「紅葉」（部分）昭和9年（1934） 岡田美術館蔵
7	田中一村「瀑布」昭和30年（1955）頃 ©2024 Hiroshi Niiyama 岡田美術館蔵
8	大橋翠石「虎図屏風」（部分）明治時代 19世紀末～20世紀初頭 岡田美術館蔵
9	菱田春草「海月」（部分）明治時代後期 20世紀初頭 岡田美術館蔵
10	下村観山「秋韻図」（部分）明治時代後期 20世紀初頭 岡田美術館蔵
11	小林古径「麦」（部分）大正15年（1926） 岡田美術館蔵
12	土田麦僊「美人草」（部分）大正13年（1924） 岡田美術館蔵
13	村上華岳「観世音座像」（部分）昭和12年（1937） 岡田美術館蔵
14	上村松園「汐くみ」（部分）昭和16年（1941） 岡田美術館蔵
15	横山大観「雨後嵐峡」（部分）昭和時代 20世紀前半 岡田美術館蔵
16	「志野山水図録」美濃窯 桃山時代 16世紀末～17世紀初頭 岡田美術館蔵
17	「色絵唐花文皿」鍋島藩窯 江戸時代 17世紀後半～18世紀前半 岡田美術館蔵
18	尾形乾山「色絵立葵図香合」江戸時代 18世紀 岡田美術館蔵
19	国指定重要無形民俗文化財「湯立獅子舞」
20	美術館外観
21	開化亭
22	足湯カフェ
23	アソリュティ マンドショコラ ミュゼオカダ 7個入

申し込みフォーム \*フォームへの記入、もしくはお名刺の添付をお願いいたします。

貴社名			
媒体名			
ご担当者様名		TEL	
部署名		FAX	
E-mail			
ご住所	〒 -		
放送・掲載内容			
放送・掲載予定日	年 月 日	画像データ必要期限	年 月 日
放映エリア/発行部数	弊社社内ネットワークへの当該記事PDFの掲載可否		可 / 否
その他、掲載条件			

※プレゼント用招待券をご希望の方は、別途広報担当者にお問い合わせください。